



▲琵琶湖上から見た海津の石積

高島市マキノ町の海津湊から大崎寺への道に、旦過公園があります。ここには、お堂があつて、古来京都・大阪・畿内から北国へ行き交う人々が一旦休みをとり、時には宿泊し、次の地へと旅立ち去つたと言います。

ここに立ち、往古への思いを馳せると、側には樹齢70年余りの桜が渾身の力を振り絞つて花を咲かせます。桜木は風雪に耐え、大きくばみやゴツゴツとした樹肌をあらわします。この並木の続く回廊に、海津湊の石垣が塼型になつて西浜へと続き、桜と石垣は一对を成して往古の時代を語ってくれます。



▲海津湊（昭和初期）

建造前の状況を『大崎寺文書』（天和2年（1682年））では、次のように語っています。

「…最前より御訴訟申し上げ候とあり、浜がわに私どもの住み居り屋敷13軒は、波除け石垣崩れ少しの風波にも家へ水が入り、難儀に仕り儀にご座候ゆえ、ご慈悲に願ひの通り、入用銀6貫19匁5分をお貸し下され成され候ハバ、有難く存じます。……」（読下し文）とあります。

村人達は、度重なる大波によつて石垣が崩れ、被害に苦しみ借財を重ねていました。このような中、元禄14年、西浜村に甲府藩領代官・西与一左衛門が就任しました。

村人達の苦しみ同情した彼は、就任早々に石垣築造の偉業を成し遂げ、しかも、費用を村民の負担による「自普請」でなく、お上が負担する「御普請」であつたといひます。

西与一左衛門は、思いやりと実行力のある人物で、西浜・蓮光寺入口の案内板には、次のように書かれています。

古文書の語る海津の石垣

マキノ古文書クラブの活動から

「元禄14年に…西与一左衛門が風波のたび宅地に被害の甚だしいのをあわれんで石垣を築いた。…この石積みのおかげで水害がなくなった。村人たちがその業績をたたえ、院内に碑を建立し、毎年3月15日には、西与一左衛門の法会が営まれている。」

古文書に直接触れてみるのは、楽しいものです。生の声が伝わってきます。古文書の解説、または整理のボランティアで、「郷土の歴史探訪」を試みませんか？

●マキノ古文書クラブの活動

毎月第3金曜日 13時30分～16時
▼場所
マキノ土に学ぶ里研修センター

閩文化財課
☎(32) 4467

編集者のつぶやき

もうすぐ暑い夏がやってきますね。7月には高島の夏の風物詩「ペーロン大会」が行われます。私も参加したことがあります。ペーロンを真っ直ぐ漕ぐのは大変難しく、すぐに右へ左へ迷走。失敗すると転覆すること。チームワークが何より大事です。今年はどんな熱いレースが行われるのか、今から楽しみです。（広報担当S）

拡大版 国保年金

タウン トピックス

消費生活 省エネ

安心安全

子育て 市長の手帳

みんなの 575

未来への種

びよっぴん だより

暮らしの 情報

教育委員会

健康生活 元気生活

図書館 窓口だより

歴史散歩

歴史散歩

歴史散歩